

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
仙台医療福祉 専門学校	昭和56年3月31日	鈴木 一樹	〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央4-7-22 (電話) 022-217-8883				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人北杜学園	昭和56年3月31日	鈴木 一樹	〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央4-7-20 (電話) 022-217-8880				
目的	学校教育法に基づき、職業人として必要な能力の育成を基本とし、商業実務関係及び社会福祉関係並びに医療関係の各分野において活躍するための技能と教養を教授し、地域社会に貢献する人材を育成する。						
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務専門課程	診療情報管理学科	平成26年文部科学省告示第6号	—			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2865	1560	1125	360	0	0
生徒総定員		生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
90人		46人	4人	18人	22人		
学期制度	■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日 ■3学期:		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 40点以上 定期考査(内規に明記)			
長期休み	■学年始:なし ■夏季:1年 7月19日～8月19日 2年 8月1日～8月19日 3年 8月4日～8月19日 ■冬季:1年 12月26日～1月6日 2年 12月26日～1月6日 3年 12月26日～1月4日 ■学年末:1年 2月10日～3月31日 2年 2月10日～3月31日 3年 1月13日～3月31日		卒業・進級条件	出席日数:3/4以上 各科目授業時間数:2/3以上 成績:修得合計時間(進級:800時間以上、卒業2400時間以上)			
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 出席不良通知、三者面談		課外活動	■課外活動の種類 地域清掃、献血、募金活動 ■サークル活動: 有			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 病院、医療関連企業、コンピュータ関連企業 ■就職率 ^{※1} : 88.2 % ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 75 % ■その他 無 (平成 27年度卒業者に関する平成28年5月1日時点の情報)		主な資格・検定等	診療情報管理士認定試験 診療情報請求事務能力認定試験 医事コンピュータ技能検定 電子カルテ実技検定試験 Excel表計算処理技能検定			
中途退学の現状	■中途退学者 3名 平成27年4月1日時点において 在学者 56名 平成28年3月31日時点において 在学者 53名 ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止のための取組 オリエンテーション時における職業の意識付け、個人面談、交流会等のイベント、相談室の活用		中退率	5.4 % (平成27年4月1日入学者を含む) (平成28年3月31日卒業者を含む)			
ホームページ	URL: http://www.hokuto.ac.jp						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

仙台医療福祉専門学校では、関係業界等のニーズを踏まえた実践的かつ専門的な人材育成を図ることを目的として、(1)業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員、(2)専攻分野に関する学会や学術機関等の有識者、(3)実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員といった外部委員と、内部委員(教育課程の編成の責任者・専任教員)とから編成される、教育課程編成委員会を置く。教育課程編成委員会は、以下を踏まえた教育課程の編成に関する提言を行う。

- ①生徒の就業先の業界における人材の専門性に関する動向
- ②国又は地域の産業振興の方向性
- ③実務に関する知識、技術、技能などの専門的事項

教育課程編成委員会の提言は、校長のリーダーシップのもと、教務運営委員会を通じて、授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫に活かすよう努めるものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、校長の諮問機関として以下の事項について審議し、提言を行う。

- ①授業科目の設定及び内容に関する事項
- ②カリキュラムの改善、充実に関する事項
- ③演習及び実習の内容に関する事項
- ④授業内容及び方法の改善、充実に関する事項
- ⑤演習及び実習の効果測定の評価基準に関する事項
- ⑥その他教育課程の編成に関する事項

校長は、教育課程編成委員会の議決及び提言を踏まえ、教務運営委員会を通じて、より実践的かつ専門的な教育課程の編成に努める。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
青山 美智子	仙台青葉学院短期大学 ビジネスキャリア学科 准教授	1年	②
及川 幸子	東北医科薬科大学病院 診療情報管理室 診療情報管理係長	1年	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

毎年度定期的に2回開催する。

(開催日時)

第1回 平成28年 9月20日 15:30～17:25

第2回 平成29年 1月24日 13:30～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

生徒の就業先の業界における人材の専門性に関する動向、国又は地域の産業振興の方向性、実務に関する知識、技術、技能などの専門的事項について、委員の方々が有する知見に基づいた意見を聴取し、職業実践専門課程としてふさわしい授業科目の開設、または、授業内容・方法の改善・工夫等に活かしていく。

平成29年度に向けては、「実習指導Ⅰ」「実習指導Ⅱ」で使用する教材資料を開発する。実習先である医療機関では電子カルテの導入が進んでおり、医事課の業務内容や流れ、患者様の動線なども大きく変わってきている。特に、診療情報管理に関わる業務ではコーディングやDPCについても理解が求められている。これに伴い学生の実習内容も多様化している状況を鑑み、最新の实習現場の状況を提供し、学生への指導強化に繋げる。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学校の教育の方針「実学的思考の重視に立って、医療・福祉分野における専門知識や技術を身につけたスペシャリストの育成を目指す」に基づき、病院等の目指す専門分野で見学や実習を行い、専門職業人として必要な組織の理解と診療録管理部門を中心とした業務を、実践的かつ専門的に学び、社会性のある診療情報管理士を目指す。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

計画書を提出し、実習の目的、育成目標・履修科目、実習生規則、個人情報取り扱い、実習内容、評価等について、実習先と確認・理解のもとに実習を行っている。

(3)具体的な連携の例		
科目名	科目概要	連携企業等
病院見学	2年次からの実習及び3年次の就職を見据え、医療現場の空気に直接触れることで、目標の再確認につなげる。	仙台市内の病院 2件
病院実習Ⅰ	病院において主に医事業務に則した実習を行い、医療従事者としての職業観と自己の適性を確認する。	東北6県の病院 12件
病院実習Ⅱ	病院の基本的機能の理解、入院及び外来診療録の具体的管理状況の理解、診療録管理部門の病院内で果たしている機能の理解、疾病統計・サマリー等がどのようなものかを具体的に理解する。	東北6県の病院 19件

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

仙台医療福祉専門学校では、教員の更なる資質及び指導力の向上を図ることを目的として、「教員研修及び研究に関する規程」に基づき、計画的な研修を実施する。研修は以下の2つに大別される。

①学内研修 企業等から講師を招いた教員研修会や知識、技術、技能等を習得するための教材等の補助等、業務遂行上必要となる知識、技術、技能等を習得するために学内で実施する研修

②学外研修 職能団体、検定等を主催する協会等が開催する研修会及び研究会等への参加など、業務遂行上必要となる知識、技術、技能等を習得するために学外で実施する研修

これら研修を通じて、教職員は、必要な知識、技術の向上を図るとともに、新たな業務上の要請に応えるため自ら能力開発に努める。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

平成27年度における研修参加の実績として、2回の研修に参加があった。日本病院会が主催する診療情報管理士教育事業に関する説明会においては、各委員会が取り組んでいる領域の進捗状況及び次回認定試験実施要項の説明などがあった。仙台市立病院施設見学研修会においては、医療従事者として求められる実務内容を再確認し、仕事をするうえで求められる能力や意識の共通理解を図ることができた。

②指導力の修得・向上のための研修等

平成27年度における研修参加の実績として、本校が所属する宮城県専修学校各種学校連合会主催の新任教員研修に1名の参加があり、3日間にわたり学校制度の歴史と仕組み、専修学校制度の目的と仕組みを理解し、教員に必要な自覚および教育訓練手法を学んだ。更に講演の聴講や他校の教員との交流により、様々な情報交換や今後の教育活動についての多くの知見を得ることができ、教育力を高める材料となった。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

平成28年度における研修計画として、2回の参加を予定している。まず、昨年度に引き続き、仙台市立病院施設見学研修会の参加を予定しており、医療従事者として求められる実務内容を再確認し、仕事をするうえで求められる能力や意識の共通理解を図る。また、日本診療情報管理士会主催のコーディングスキルアップ勉強会では、疾病等に対するコーディングの正しい知識と技術の修得を目指す。

②指導力の修得・向上のための研修等

平成28年度における研修計画として、日本病院会が主催する診療情報管理士教育事業に関する説明会に参加予定である。医療現場において求められる情報、統計業務などに対応すべく、即戦力となる人材育成の教育へとシフトが求められている。平成29年度より新カリキュラムへの移行が決定しており、科目変更に伴う指導方法の向上を目的とする。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

自己点検の評価結果について、その客観性・透明性を高めること、学校と関係する方の理解促進や連携協力により、教育活動、学校運営に係るご助言等を行っていただき、これらの改善を図ろうとするものである。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1理念・目的・育人人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) 2学校における職業教育の特色は何か 3社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか 4理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか 5各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか

(2) 学校運営	<p>1 目的等に沿った運営方針が策定されているか 2 事業計画に沿った運営方針が策定されているか 3 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか 4 人事、給与に関する制度は整備されているか 5 教務・財務等の組織設備など意識決定システムは整備されているか 6 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか 7 教育活動に関する情報公開が適切になされているか 8 情報システム化等による業務の効率化が図られているか</p>
(3) 教育活動	<p>1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか 2 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか 3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか 4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか 5 関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか 6 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか 7 授業評価の実施・評価体制はあるか 8 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか 9 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 10 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか 11 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 12 関連分野における業界との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか 13 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか 14 職員の能力開発のための研修等が行われているか</p>
(4) 学修成果	<p>1 就職率の向上が図られているか 2 資格取得率の向上が図られているか 3 退学率の低減が図られているか 4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか 5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</p>
(5) 学生支援	<p>1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか 2 学生相談に関する体制は整備されているか 3 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5 課外活動に対する支援体制は整備されているか 6 学生の生活環境への支援は行われているか 7 保護者と適切に連携しているか 8 卒業生への支援体制はあるか 9 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか 10 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</p>
(6) 教育環境	<p>1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 2 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 3 防災に対する体制は整備されているか</p>
(7) 学生の受入れ募集	<p>1 学生募集活動は、適正に行われているか 2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか 3 学納金は妥当なものとなっているか</p>

(8)財務	1中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 2予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 3財務について会計監査が適正に行われているか 4財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	1法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 2個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか 3自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 4自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	1学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 2学生のボランティア活動を奨励、支援しているか 3地域に対する公開講座、教育訓練(公共職業訓練等)の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	該当しない

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

企業等から参画した委員の意見は、学生によりよい教育と環境を継続的に提供し、現場で求められる質の高い専門職業人の養成に直結するので、指摘のあった項目については、教務運営委員会等で検討する材料としている。
今年度開催の委員会において、委員より厚生労働省が実施を促している「ストレスチェック制度」について説明があった。期待される効果はメンタルヘルスの不調を未然に防止することであり、職場の環境改善に繋がる。最終的には質の高い教育に直結し、学生へ有益に還元されるはずであるという内容であった。学園としても実施を検討しているなかでの提言であったため、委員会終了後、「ストレスチェック制度実施規程」を制定し、1ヶ月以内に学園全教職員に対して実施された。今後も継続的に実施していく方針である。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
戸上 謙一	有限会社ファーマシーすず ふだい町調剤薬局営業部 統括部長	1年	企業等委員
及川 幸子	東北医科薬科大学病院 診療情報管理室 診療情報管理係長	1年	企業等委員
内海 潤悦	宮城県成人病予防協会附属 仙台循環器病センター 事務部医事課 係長	1年	企業等委員 卒業生
齋藤 達也	株式会社マツモトキヨシ東日本販売 店舗運営部 次長	1年	企業等委員
菅澤 昌也	介護老人保健施設 エバーグリーン・イスマ 施設長	1年	企業等委員 卒業生
工藤 俊平	泉第2チェリーこども園 園長	1年	企業等委員
小泉 敦保	株式会社バイタルケア 代表取締役社長	1年	企業等委員
小坂井 秀行	プロンプター甲斐 有限会社 リハビリテーション部 部長	1年	企業等委員 卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL:http://www.hokuto.ac.jp

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

仙台医療福祉専門学校では、専修学校の社会的使命と公共性に鑑み、学校ホームページをはじめとして、広く周知を図ることができる方法によって、積極的な情報提供に努める。情報提供を通じて広く社会からのチェックと評価を受け、これをフィードバックして、教育活動その他学校運営の改善に活用する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標
(2) 各学科等の教育	授業風景(動画)紹介、取得資格・検定、卒業生進路
(3) 教職員	担当科目教員紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	実践的実習紹介、就職支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、クラブ・サークル活動
(6) 学生の生活支援	Q&A(入学編、学校編、学習編、就職編)、学生相談室
(7) 学生納付金・修学支援	学納金、各種奨学金、学費減免制度の紹介
(8) 学校の財務	学園の財務状況
(9) 学校評価	学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	—
(11) その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL:<http://www.hokuto.ac.jp>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 診療情報管理学科) 平成28年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			一般教養Ⅰ	現代における社会福祉の意義理念及び福祉の法体系制度、財政全体の要旨を理解する。更に社会福祉の遂行と福祉専門職の必要性、そしてその活動による福祉社会の確立と必要性について理解する。	1通	60	4	○	△		○			○		
○			一般教養Ⅱ	就職試験対策として、SPI対策等の問題演習を解答・解説通して学ぶ。	2通	30	2	○	△		○				○	
○			一般教養Ⅲ	就職試験に対応できるように、一般常識や適性検査、小論文等を反復練習する。	3通	30	2	○	△		○				○	
○			ビジネス実務	社会人として必要とされる「仕事の基本とビジネス文章」「対人コミュニケーション」を学び、ビジネス能力検定3級レベルの知識習得を目指す。	1通	60	4	○			○				○	
○			コミュニケーション	1年次のビジネス実務を踏まえながら、社会に必要なコミュニケーション能力と実務知識やマナーを身に付ける。	2通	60	4	△	○		○				○	
	○		スポーツ	スポーツを通し、運動の楽しさや喜びを学ぶ。また、障害を通じて継続的に運動できるようスポーツに対する関心を深める。	1後	15	1		○	△	○				○	
	○		ペン字	文字の知識を高め、美しく読みやすい文字の書き方(楷書・行書)を学ぶ。実技に重点を置き、根気よく書いて覚える。	1後	30	2		○	△	○				○	
		○	手話	音声無しに目で情報を受け取る力を養い、医療現場における接客手話を学ぶ。	1後	30	2	△	○		○				○	

○	公費・労災・自賠責の基礎知識	公費負担医療給付、労災保険、自賠責保険と健康保険の取り扱いの関連を理解する。	2通	60	4	○	○	○
○	医事コン・電子カルテ演習 I	医事コン・電子カルテを使用し、外来・入院のカルテ及び伝票入力から、正確なレセプトの作成方法を身に付ける。	2通	120	8	○	○	○
○	表計算応用演習	Excelの操作の応用力を養い、高度なデータ分析力を身に付けることで、表計算処理技能認定検定2～1級を目指す。	2通	60	4	○	○	○
○	臨床医学総論	病気の原因、病態、診断、検査、治療の概要を学ぶ。先天性疾患、外因性疾患、中毒等の種類と特徴、治療法とICD分類に関連した基礎知識を習得する。	2前	20	1	○	○	○
○	臨床医学各論 I・II	感染症、寄生虫症、新生物等、疾病の特徴や症状、検査・治療について学び、ICD分類に結びつける基礎知識を習得する。	2前	40	2	○	○	○
○	臨床医学各論 III・IV	血液・代謝・内分泌、脳神経・感覚器系の障害に関連した各疾病の特徴や症状・所見、診断・治療方法を学ぶ。	2後	40	2	○	○	○
○	臨床医学各論 V・VI	呼吸器・循環器系の疾患、腹部に位置する各種臓器の疾病について、特徴や症状・所見、診断・治療方法を学ぶ。	2前	40	2	○	○	○
○	臨床医学各論 VII・VIII	周産期疾患及び身体の形態、運動器に関わる骨・筋肉・関節等の疾病について、特徴や症状・所見、診断・治療方法を学ぶ。	2後	40	2	○	○	○
○	医学用語	人体の構造・機能、症状・診断名、医療行為などの専門用語を習得し、診療録を適切に理解できる知識を身に付ける。	2後	30	2	○	○	○
○	国際疾病分類概論	疾病の分類の概念・種類・目的、「ICD-10」他の国際疾病分類ファミリー等を学ぶ。定められたルールに基づいて分類コードを付けるための理論と技法を習得する。	2前	20	1	○	○	○
○	分類法	国際疾患分類「ICD」編纂の基準を理解し、特に頻度の高い疾病を中心にコーディング技術を学ぶ。	2通	100	5	○	○	○

○		実習指導 I	実習の目的を理解し、実習先で目的を達成できるように実践指導する。	2 前	15	1	○	△	○	○				
○		病院実習 I	病院において主に医事業務に則した実習を行い、医療従事者としての職業観と自己の適性を確認する。	2 前	120	4			○	○	○	○		
○		医療請求事務 III	保険診療の仕組みと保険の種類、給付内容、患者負担、窓口取扱い等について理解する。レセプトの事務点検及び内容点検の講義と演習を行い、技術を身に付ける。	3 通	120	8	○	△	○			○		
○		医事コン・電子カルテ演習 II	医事コンのソフト及び電子カルテのソフトを使用し、診療行為をデータ入力する。会計業務やレセプト業務を実際に学習することで実務に近い知識を習得する。	3 通	90	6		○	○			○		
○		PC演習 III	Excel、PowerPointの応用技術、統計処理の実務を習得し、パソコン操作の習熟を図る。	3 通	60	4		○	○			○		
○		診療情報管理論 I・II	診療に関する情報・記録の理解と記録作成支援、情報活用と管理体制の骨格を学ぶ。	3 前	60	4	○		○			○		
○		医療統計学	診療記録に含まれる医療の質に関わる情報、傷病名、必要な医療情報から統計的方法による分類と視覚化を学習する。	3 前	30	2	○		○			○		
○		医療情報学	診療情報管理士に必要な情報科学、情報通信技術並びにそれらの医療における応用事例の知識を習得する。	3 前	30	2	○		○			○		
○		医療管理各論 I・II	病院管理・診療情報管理上必要な知識、病院経営に重要な診療情報の活用に関する考え方を理解する。	3 前	60	4	○		○			○		
○		診療情報演習 I	診療情報管理士認定試験合格に向けて、演習問題で基礎医学の力をしっかりと身に付ける。(演習問題は臨床医学各論 I～IV)	3 後	45	3	△	○	○			○		
○		診療情報演習 II	診療情報管理士認定試験合格に向けて、演習問題で基礎医学の力をしっかりと身に付ける。(演習問題は臨床医学各論 V～VIII)	3 後	45	3	△	○	○			○		

○		診療情報演習Ⅲ	診療情報管理士認定試験合格に向けて、演習問題で基礎医学の力をしっかりと身に付ける。(演習問題は人体構造機能論、医学用語)	3前	30	2	△	○	○	○								
○		診療情報演習Ⅳ	診療情報管理士認定試験合格に向けて、演習問題で基礎医学の力をしっかりと身に付ける。(演習問題は医療概論、臨床医学総論)	3前	30	2	△	○	○	○								
○		診療情報演習Ⅴ	診療情報管理士認定試験合格に向けて、演習問題で基礎医学の力をしっかりと身に付ける。(演習問題は診療情報管理論Ⅰ・Ⅱ)	3後	30	2	△	○	○	○								
○		診療情報演習Ⅵ	診療情報管理士認定試験合格に向けて、演習問題で基礎医学の力をしっかりと身に付ける。(演習問題は医療情報学、医療統計学)	3後	30	2	△	○	○	○								
○		診療情報演習Ⅶ	診療情報管理士認定試験合格に向けて、演習問題で基礎医学の力をしっかりと身に付ける。(演習問題は医療管理総論、医療管理各論Ⅰ・Ⅱ)	3後	30	2	△	○	○	○								
○		診療情報演習Ⅷ	診療情報管理士認定試験合格に向けて、演習問題で基礎医学の力をしっかりと身に付ける。(演習問題は国際疾病分類概論、分類法)	3通	120	8	△	○	○	○								
○		実習指導Ⅱ	病院実習で診療情報管理士業務について学ぶ為の心構えやマナーを身に付ける。	3前	10	—	○	△	○	○								
○		病院実習Ⅱ	病院の基本的機能の理解、入院及び外来診療録の具体的管理状況の理解、診療録管理部門の病院内で果たしている機能の理解、疾病統計・サマリー等がどのようなものを具体的に理解する。	3前	120	4			○	○	○	○						
○		実務実習	医療機関での業務を想定した実習を通じて、コミュニケーション能力や医療従事者としての自覚を身に付ける。	3前	120	4			○	○	○							
合計				47科目				2865単位時間(177単位)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
1年間に履修すべき授業時数は800時間以上とする。修業年限が3年以上の課程の修了に必要な総授業時数は2,400時間以上とする。		1学年の学期区分	前・後期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。